トークセッション「被災地交流１万人市民団をめざして」

2014 年 1 月 13 日　KIITO

昨年 3 月 11 日台湾を出発して始まった白屋プロジェクト日本を巡る旅も、今日のイベントをもって終了し、台湾への帰途に就く。今日は、そのプロジェクトに関わった人たちを中心に、およそ１年の旅を振り返り、そしてそこでできたネットワークをもとに、今後のことを語り合う。そして、「被災地交流１万人市民団」をめざしてその足がかりの一つにしたい、というわけだ。

会場は、デザイン・クリエイティブセンターKIITO のギャラリー、白屋パネル展に展示されている作品に囲まれてのトークである。1 月 5 日から『加川広重 巨大絵画が繋ぐ東北と神戸 2014』が開催されており、白屋パネル展と共に、この企画のプログラムの一つとして参加している。しつらえは大変カジュアルに、パイプいすを馬蹄形に並べただけである。そこに 30 名ほどの参加者が集まった。さらに、石巻と台湾の芸術村とはスカイプで出演してもらおうと、事前に準備をしてきた。小林郁雄さんの IT 技術が試されるときだ

1 時定刻にトークセッションは始まった。司会進行は、ご存じ天川佳美さん、白屋プロジェクト日本側の秘書長である。まずは、被災地市民交流会の代表垂水英司さんが挨拶のあと、この白屋プロジェクトの概要を紹介した。ペーパードームを台湾へ移築したことや、石巻と大槌で壁画を描いた 2012 年の活動に触れた後、このたびの白屋プロジェクトの様子を当時の写真を見ながら振り返った。

その後、早速 ISHINOMAKI2.0 の松村さんに登場願うことになった。石巻プロジェクトを若手で推進した中心人物だ。スカイプで連絡を取るとすぐに応答してくれた松村さんの姿がプロジェクターで壁に映し出される。松村さんもこちらの様子が確認できる。会場に並

べられた作品に石巻のアーティストの作品を見つけて「〇〇さんの作品がある」と懐かしい様子だ。遅れていた石巻白屋プロジェクトの報告書が出来上がったことを紹介しながら、石巻での活動を踏まえて、これからも交流を深めていきたいとのメッセージを披露した。

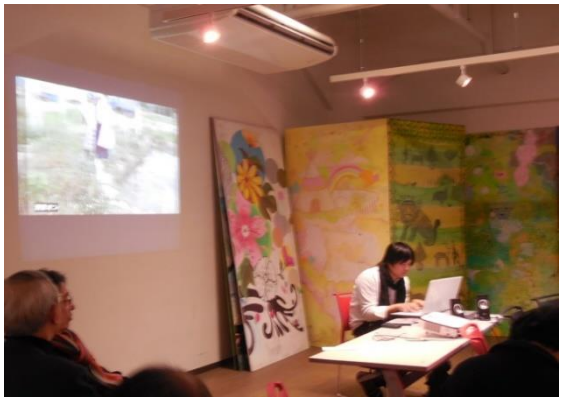
続いて、台湾の芸術村を呼び出した。スカイプに映し出されたのは、芸術村責任者の蒋、商夫妻のほか、アーティスト、スタッフなど８名ほどの人たちで、このトークセッションのため白屋芸術村に集まっていたのだ。こちらの出席者に顔見知りがいるのを見つけて、盛んに手を振っている。

早速、明るい彼らは「サイコー！」と声をあげて一斉に呼びかける。私たちも負けずに手を挙げてこたえる。そして入れ替わりカメラの前に座って一人一人簡単なメッセージを伝えてくれた。翻訳は神戸大学の留学生陳怡如さん、神戸の白屋プロジェクトでも手伝ってもらった。

スカイプで台湾や石巻と繋いだのは大変良かった。このプロジェクトが被災地と被災地を結び、人と人をネットワークするという趣旨にふさわしい雰囲気を醸し出したといえる。

次に、「被災地学生交流」の報告がなされた。カリタス大槌ベースの壁面には、「希望の樹」と「希望の虹」の壁画を作成したのがきっかけとなり、神戸大学工学部近藤研究室が大槌高校生らと交流を深め、大槌の復興を考えるワークショップの開催や定点観測などを大槌町内で実施してきた。阪神・淡路大震災の被災地大学の神戸大学生と東日本大震災の被災地である大槌高校生たちが「被災地学生交流」を通して、共に復興に考えて行動した経過を報告する。

会場左手の壁には、壁画制作の記録 DVD や定点観測する高校生や大学生の記録映像が映し出されている。



　続いて三谷さんに発言をおねがいした。同じ KIITO で@リアス NPO サポートセンターが実施している写真展「復興カメラ」を神戸につなぐのに尽力した。今回 KIITO のギャラリーでは、復興カメラ写真展と白屋パネル展が仲良くコラボレーとしている。

　次は、巨大絵画の画家加川広重さんが登場して、制作した思いや過程を説明してくださった。KIITO の大ホールには、最初に制作した「雪に包まれる被災地」と、今回新たに制作された「南三陸の黄金」が向かいあっている。２作目は少しがみえかかった希望も表現したかったということだ。

　続いて、今日のトークセッションに参加した人達からの発言である。プロジェクトに関連させながら様々な思いが語られた

　以前、人と防災未来センターにいて、新潟大学さらに現在は東北工大と、被災地を巡回している福留邦洋さん。

　TCC にいて、現在大槌町のおおつちさいがい FM に支援に赴いている　　さん。

　東北大学災害科学国際研究所の井内加奈子さん、人と防災未来センター主任研究員のリズマリさん、被災地学生交流会の代表で神戸大学の近藤民代さん、いずれもアメリカなどの災害被災地にネットワークを持つ面々からそれぞれ発言があった。

　また、神戸市の OB で今も KTEC で技術者中心の災害支援活動をしている片瀬範雄さんからも発言があった。

　終わりに、世代論談義にも話が及び、お開きとなった。今度は台湾でお会いしましょう。再見！

白屋の解体

2014 年 1 月 28 日　みなとのもり公園

今日はいよいよ白屋の解体である。朝から天川夫妻、石井さん、小林さん、垂水さんなどが現場へ。小出工務店に委託しての作業、順調に進んでいく。最後の解体となると、やっとここまで来たかという思いがする。宮崎さん、佐藤さんなども顔を出していただいた。

午後 2 時には、台湾移送の打ち合わせのため、陸超神戸華僑総会会長、香川萬海大阪支店長、近藤三井倉庫課長などが現場に到着した。ペーパードーム以来の再会でもある。ともかくボランティア活動の仕事だから、特段の協力をしましょうとのこと。これも縁が繋がる不思議さを感じた。